

STATEMENTS 21 12 2018



行動するシンクタンク

一般財団法人 下関21世紀協会

Shimonoseki 21st Century Association

思索の人として行動し、行動の人として思索せよ
アンリ・ベルクソン (Henri Bergson) [1859 ~ 1941] フランスの哲学者

地域活動への想い

一般財団法人下関21世紀協会 理事 松永 英治

ご縁あって3年ほど前に下関21世紀協会に入会しました。私は下関商工会議所青年部(下関YEG)に所属し活動しているのですが、下関21世紀協会と地域で活動をともにするなかで、この協会には下関YEGや下関青年会議所(下関JC)のOB、その他さまざまな立場の方が所属されていることを知り、すごいメンバーが揃った団体だと実感し、人の魅力に引かれて入会させて頂きました。

下関21世紀協会は、様々な活動を行っていますが、関門海峡花火大会の開催が最も大きな事業と言えます。当初、素敵な方々と活動をともにすることで自分を高めたいという目的で入会したのですが、いつしか子供たちや孫の世代、この先ずっとこの花火大会、夏の楽しみを繋げていきたいということもこの会で活動するモチベーションの一つとなりました。昨今、全国的に目を向ければ、様々な要因によって花火大会を中止するところがあると耳にします。そのような中、関門海峡花火大会が下関市の元気バロメーターとして、何とか環境や状況に合わせながら続けていければと願っています。

私が地域で活動する根幹に「豊かな郷土を残したい」という想いがあり、下関市に最も期待することは、定住人口が増えて欲しいということです。観光やスポーツによる交流人口については、活気があることを実感するのですが、定住人口の増加については、私の認識が低いということもあるかもしれ



2018年度海峡花火大会運営会議

ませんが、良い状況であるとは思っていません。やはり住んでいる人が多いということが、地域社会の良い循環を促し、そしてまた街の底力になります。「定住人口の増加は現実的でない」と言われるかもしれませんが、何かのきっかけで物事が大きく変わることもあります。その為にも諦めず種を撒き続けることが大切だと思います。

この先、少子高齢化による人口減少が予想されている下関市において、下関21世紀協会の役割や期待は更に高まっていくものと思っています。下関21世紀協会、またその他の団体もまた下関市の発展のために尽力してく先に、「ここで働きたいな」「住みたいな」と多くの人に感じてもらえる、より一層魅力ある下関市が待っていることを願っています。



2018年度海峡花火フォトコン大賞受賞作品